



CLINICALPATH NEWS

Japanese Society for Clinical Pathway
日本クリニカルパス学会

No.
35

発行日
2016年3月15日

in 舞浜

第16回日本クリニカルパス学会 学術集会報告

2015.11.13～14

第16回学術集会 会長、東京医療保健大学
小西敏郎

第16回日本クリニカルパス学会学術集会を2015年11月13日・14日にクリスマスイルミネーション輝く東京ベイ舞浜ホテル クラブリゾートにて開催させていただきました。3,000名を超える多くの参加者（うち有料参加者2,668名）にご参加いただき、盛況裡に終了できたことを会員の皆様へ感謝いたします。応募演題数も、16のシンポジウムのうち公募とした8つのシンポジウムをはじめ、一般演題（口演、ポスター）やパス展示に計500題を超える応募をいただきました。学術集会では、多くの応募シンポジストに加え、146題の口演発表、317題のポスター発表、そして、42題のパス展示の発表をいただきました。演題発表にご応募をいただいた会員の皆様へ改めて御礼を申し上げます。

本学会の会員は、法人会員 約420施設、個人会員が現時点で約1,400名です。そのうち看護師は約570名（約41%）、医師が約560名（約40%）です。学術集会の参加者は圧倒的に看護師の方が多く、今回は栄養士の方々にも多くご参加いただきたいと考え、女性に人気のディズニーリゾートで開かせていただきました。限りのある宿泊施設、狭い会場、混雑する廊下、食事と席を確保できない超満員



のランチョンセミナー、ポスターは1日限りの展示で貼り替えが必要など、ご迷惑を多々おかけしましたが、いずこの会場も溢れんばかりの熱気で、熱心にご討論いただきました。思い切って舞浜ディズニーリゾートで開催して本当によかったと思っています。年間3,000万人が訪れる舞浜にもかかわらず、副島理事長と同様に、生まれて初めてディズニーリ

ゾートに来られた方も結構お見えになったようです。会場では、会長の私は頭にミッキーのカチューシャと肩にはお手製のリボンを付け、雰囲気が一層和らぐようにしました。例年の学会よりは笑顔の参加者が多かったように思うのは、ちょっと手前味噌（鼻真倒し？）過ぎるでしょうか。

今回はテーマを「未来に向けたクリニカルパススマートプラチナ時代の活用を探る」といたしました。日本



小西敏郎 先生

▶ 第16回日本クリニカルパス学会学術集会報告
第16回日本クリニカルパス学会学術集会賞 最優秀賞を受賞して

クリニカルパス学会は1999年に発足し、日本医療マネジメント学会とともに、我が国におけるクリニカルパスの普及に大きく貢献してきました。クリニカルパスそのものは、入院中の詳細な診療計画のチャートという形で使われますが、学会ではクリニカルパスは、『患者状態と診療行為の目標、および評価・記録を含む標準診療計画であり、標準からの偏位を分析することで医療の質を改善する手法』と定義しています。いまやICT（information and communication technology）が高度に発達したスマート社会です。今回の学会では、超高齢社会で地域包括医療政策が展開されるもとの、スマート社会のなかで医療にもICT化が広まり、パスの電子化も進むなか、これからクリニカルパスがどのように医療の質の向上に貢献できるかについて議論したいと考えました。ICTと地域包括医療、地域連携、病床の機能分化、が今回のキーワードでした。

招待講演は、本学術集会のポスターのイラストを描いていただいた銅版画家の山本容子氏に「Art in Hospital – スウェーデンを旅して –」をお願いいたしました。ヘレン・メリルの歌う「You'd be so nice to come home to」のイラストに通じる温かい在宅医療のイメージにマッチした心のこもった病院の壁画を描いておられるお話を伺いました。大会記念講演には国立病院機構理事長の桐野高明先生から「日本の医療の選択」、特別講演では、日本看護協会会長の坂本すが先生から『2025年に向かって私たちがなすべきこと – 看護の立場から』、厚生労働省老健局 迫井正深課長には『地域包括ケアシステム構築に向けた論点』で日本の超高齢社会の地域包括医療政策の動向と未来の方向性、そしてそのなかでのICTの応用について、行政の立場からご紹介いただきました。また祐ホームクリニック 武藤真祐理事長をお招きし、「ICTを用いた在宅医療及び地域包括ケアの実践例と海外への展開」として、シンガポールでの実体験を含めた最近の在宅医療の実際について講演していただきました。



またトークショー「闘病を通じて感じたこと – 医療者に希望すること –」では、中井美穂アナウンサーの司会で、都啓一・久宝留理子ご夫妻に、ご自身達が患者として家族としての闘病体験から学んだ医療者に伝えたいことを語っていただきました。中井美穂さんにはシンポジウム『精神疾患ケア可視化への潮流～ブレイクスルーの鍵を探る～』でのコメンテーターもお願いしました。難問の多い精神科のパスが学会の場で初めて語られましたが、中井さんのコメントのおかげで、門外漢の方たちにも理解しやすくなったように思います。

特筆すべきこととして、ランチョンセミナー「DPC制度下におけるクリニカルパスの考え方」（演者 小山信彌先生、座長 上塚芳郎先生）は、モニターによる特設会場までも立見席で溢れた、前代未聞の人気となりました。DPCに対応したクリニカルパスの作成に大に関心があると思われる。

そのほかのおもなプログラムは、

- ◆理事長講演
『医療記録のパラダイムシフト – 電子カルテの新3要件 –』
副島秀久先生（済生会熊本病院 院長）
- ◆教育講演
『アンケートを用いた研究の結果はエビデンスたり得るか？～秘訣教えます～』
比江島欣慎先生（東京医療保健大学大学院 教授）
- ◆シンポジウム
『外科系のクリニカルパス – 何が変わり、何がよくなり、何がいけないの –』

『生涯健康医療電子記録としてのクリニカルパス』
『パス活動におけるセレンディピティ—思いがけない発見から得たもの—』
『内科疾患治療クリニカルパスの作成や使用は何故、難しいのか?—メリットを生み出すのに必要なこと、気をつけるべきこと—』
『地域連携とクリニカルパス—優しい在宅医療体制をつくる ケアサイクルの理解—』
『地域連携とクリニカルパス—再入院率を減少させるためのメディカルスタッフの取り組み—』
『栄養管理と地域連携—病院から地域へ—』
『栄養マネジメントパス（最期まで口から美味しく食べられるケア）』
『がん治療におけるクリニカルパスとレジュメンを考える』
『包括評価制度下でクリニカルパスの運用効果を発揮するために』
『リテラシーとしてのクリニカルパス—卒前・卒後のパス教育—』
『スマートプラチナ時代に必要なバリエーション分析機能』
『スマートプラチナ時代に向けたBOMの発展と未来』
『パスの使用率・適用率って何?』

などが行われました。

超高齢社会を迎え、ICT時代に相応しいクリニカルパスを活用することで、諸問題を解決できないかという観点からメインテーマを「未来に向けたクリニカルパス—スマートプラチナ時代の活用を探る—」として開催した本学会でした。本学会を契機にシルバー世代の多種多様な疾患患者が、ICTを駆使したクリニカルパスで、ゴールドをも超え、輝かしいプラチナの解決が図れることを願っております。きっと多くの参加者の方が、楽しい雰囲気の中で、いくつものセレンディピティに出会われたことだったでしょう。



in 舞浜

第16回日本クリニカルパス学会 学術集会賞 最優秀賞を受賞して

2015.11.13～14

伊那中央病院 循環器内科
 北林 浩

学術集会事務局の方から受賞の電話連絡をいただいた時、私は、学術集会長の小西敏郎先生のお勧めを忠実に守り、一緒に参加したクリニカルパス専任看護師2人とデイズニーシーに行き、トイ・ストーリーマニア前の広場で写真撮影をしていました。1日目の発表であったため、終わった解放感に浸りながら、すでにビールも飲み、かなりご機嫌な状態となっていました。そんななかで受賞のご連絡をいただいたのですが、周りがかかなり騒がしく（当たり前ですよ）、またほろ酔い加減であったこともあり、「優秀賞に選ばれました」→私「は？」→「最優秀賞ですので」→私「マジですか！」…なんとも失礼な応対でありました。この場をお借りし、ご連絡いただきました学術集会事務局の方にお詫びを申し上げます。

それからしばらくは、いただいた連絡をにわかに信じられず、軽いパニック状態でしたが、そのうち喜びがふつふつと湧いてきて、同行の2人とともにささやかなお祝いをしました。あの時のホットワインの味と“ハピネス・オン・ハイ”の光景は一生忘れたいと思います。本当にありがとうございました。

今回発表させていただいた演題は、「2次予防医療を意識したAMIクリニカルパスの有用性の検討」というものでした。厳しい医療情勢のなかで包括医療制度が主流となりつつある昨今、検査についてはコスト面とのバランスのなかで考えていかなければなりません、そんななかで、





あえて急性期から、2次予防医療を意識した検査をクリニカルパスというツールのなかでルーチンとして行ったときのデータを提示させていただきました。今回の検討のなかでは予想を超えた非顕性の危険因子等の発見を認め、2次予防の観点からの有用性のみならず、それを通じ患者さんの生涯の医療費用の減少にもつながる可能性を感じさせる結果でした。むろん、そのためには、患者教育などのシステムの充実が必須ですが、これをまたクリニカルパスを通じてシステム化できれば…クリニカルパスとはなんと可能性に満ちているのでしょうか！今後、さらにAMIパスの質的向上に努めていければと考えています。

クリニカルパスは団体戦の楽しさを持っていると思います。今回の受賞も、循環器診療にかかわる多職種のスタッフが、コツコツと行った診療、データから生まれたものであり、私はスタッフ代表として賞をいただいたと思っています。病院に帰って報告したところ、多くのスタッフが喜んでくれて、私としてもそれが一番うれしいことでした。



私も、また当院も、クリニカルパス運用は、客観的にみてまだまだ“ひよっこ”であり、今回の受賞は、「これからもっとがんばりなさい」という学会からの温かい激励と理解しております。今回の受賞を励みに、今後さらなる研鑽を重ねていかなければならないと感じておりますので、日本クリニカルパス学会の諸先輩方におかれましては、今後、より一層のご指導、ご鞭撻をお願い申し上げます。

【日本クリニカルパス学会 第16回学術集会賞 受賞者】

最優秀賞：

伊那中央病院 北林 浩

優秀賞：

神戸市立医療センター中央市民病院 櫻井 明弓
 岩手県立磐井病院 小野寺真理
 神鋼記念病院 櫃石 秀信
 トヨタ記念病院 毎熊 彩季
 済生会熊本病院 宮川 藍

ノミネート賞：

大阪警察病院 村松由紀美
 福井総合病院 吉岡 準平
 青森市民病院 阿部 春香
 東北薬科大学病院 佐々木俊浩
 岩手県立釜石病院 黒澤美華子
 浜脇整形外科病院 内平 貴大
 東京北医療センター 本田 沙織
 国立循環器病研究センター 吉原 史樹
 岡山大学病院 押目 奈々
 長野市民病院 下条 円華
 総合病院国保旭中央病院 小林三枝子
 青森県立中央病院 畠山 涼子
 熊本機能病院 桑原 萌
 広島厚生連吉田総合病院 本山 満
 (順不同)

【平成27年度日本クリニカルパス学会論文奨励賞】

原著：第16巻第2号掲載

「かかりつけ医の認知症診療における困難感とその背景要因に関する研究」

北里大学大学院 下村裕見子

研究報告：第16巻第3号掲載

「脳卒中急性期病棟における梗塞クリニカルパスの使用状況と早期離床に関わる看護ケアの実態」

東京医科歯科大学医学部附属病院 玉根 幸恵



リレーエッセイ 第29回

パス活動の楽しさ

高崎総合医療センター 村上 廣野

皆様、こんにちは。東北の女神、岩手県立中部病院の高橋奈美さんからリレーエッセイのバトンを受け取りました。群馬県にある高崎総合医療センターの村上です。パス活動をはじめて4年目、まだまだ新参者の私がリレーエッセイの筆者として声がかかるとは思ってもおらず、驚きと嬉しさでいっぱいです。先日は夢の国のお隣で第16回日本クリニカルパス学会学術集会に参加し、新しい学びと元気をもらって帰ってきました。また、初めてシンポジウムに参加させていただき、パス活動におけるセレンディピティについて発表してきました。不安でしたが、院内外のパス仲間から応援していただき、無事に発表と全体討論を終えることができました。懇親会では、発表を聞いてくださった方々が声をかけてくださり、またパス仲間の輪を広げることができました。そのなかで、リンクナースのやる気を引き出す活動が難しいとお話を伺いました。

私が、現在も大変だけど楽しんでパス活動を続けていられるのはなぜだろうと考えると、自身の成長に繋がっていることを感じられることと、多くのパス仲間の方々と出会えるからだと思います。パスに関わる前は、先輩方が遅くまで残業している姿を見て、“パスの仕事は大変だ！”と、苦手意識を持っていましたが、3年前に、他病院の公開パス大会に参加したことが私の転機となりました。高橋奈美さんとの出会いのきっかけでもあります。

当院では平成21年より電子カルテを導入し、パスの機能も電子化されました。私は、卒後4年目の時、先輩看護師の異動に伴い、パスの業務を引き継ぎました。そして翌年から、各病棟に新設されたパスリンクナースとして活動を始めました。リンクナースの役割は、紙パスの電子化・患者用パスの作成とパス普及活動でした。苦勞の末にパス委員会に提出したパスでしたが、多くの質問や指導に挫けそうになることも多々ありました。しかし、できあがったパスをスタッフや患者が使用して、認めてくれた時の達成感や喜びは、やりがいや楽しみに繋がりました。また、他施設のパスや活動を学びたいと考えるようになりました。

そんな時、院内の仲間に岩手県立中部病院の公開パス大会に誘われました。ところが直前になり仲間が参加できなくなり、1人で赴くこととなってしまいました。内弁慶の私は心細くて不安でした。パス大会では、参加型のワークショップと各病棟の取り組みの発表があり、活気あるパス大会で刺激を受けました。懇親会のご案内はいただいていたものの、お酒の席が苦手で、また知り合いもいないため欠席のつもりでしたが、パス大会終了後、北村先生に優しく誘っていただき、思い切って懇親会に参加してみました。懇親会では、憧れの先輩方や同世代の方々と深く話をすることができました。駆け出しだった自分に、パス仲間の繋がりができました。熱いパス活動に刺激され、院外の広い世界を知ることができました。パスへの思いや活動、苦勞話を聞きながら、楽しい時間を過ごしました。この頃から、ますますパス活動にのめりこんでいきました。その後もセミナーへの参加や松永新喜劇への入団などを通し、パス仲間の輪が広がっています。

現在は当院のパスコアメンバーとして、組織横断的に活動しています。リンクナースや院内外のパス仲間から、活動のアドバイスや楽しさをもらい、パス活動推進に繋がっていると感じます。今後も多くのスタッフが、パスに興味を持てるよう、刺激を与えられる活動をしていきたいです。またパスメンバーが“やらされている”ではなく、“こんなパスが作ってみたい”など前向きに楽しみを見つけながら取り組めるような活動を目指したいと思います。

次回は、私が初めて学会発表した時の座長で、難しい質問に困っているところを助けてくださった青森県立中央病院の伊藤淳二先生をお願いします。



後方右から2人目 村上廣野さん



第17回 日本クリニカルパス学会学術集会

会 期：平成 28 年 11 月 25 日（金）・26 日（土）

会 場：石川県立音楽堂（石川県金沢市昭和町 20-1）
ホテル日航金沢（石川県金沢市本町 2-15-1）

会 長：久保 実（石川県立中央病院 副院長）

メインテーマ：『患者さんにやさしいクリニカルパス
～エビデンスとナラティブの融合～』

プログラム：

理事長講演、会長講演、特別講演、教育講演、シンポジウム、
パネルディスカッション、教育セミナー、論文の書き方
セミナー、一般演題（口演、ポスター）、クリニカルパス
展示 など

参加登録募集期間：

平成 28 年 6 月 8 日（水）～ 10 月 25 日（火）

演題募集期間：

平成 28 年 6 月 8 日（水）～ 7 月 27 日（水）

第 17 回学術集会ホームページ：<http://jscp17.umin.jp/>



平成 28 年度 学術研究助成、資格認定試験のご案内

【学術研究助成 応募期間】 平成 28 年 4 月 1 日（金）から 6 月 30 日（木）

【資格認定試験 申請書類の提出期間】 平成 28 年 4 月 1 日（金）から 5 月 10 日（火）（当日消印有効）

※詳細は学会ホームページ（<http://www.jscp.gr.jp>）、または、学会誌第 18 巻第 1 号の巻頭をご覧ください。

2016 年度 クリニカルパス教育セミナー

『クリニカルパスを役立てよう！広めよう！～実践ノウハウ～ 2016』

【東京会場】 会 期：2016 年 7 月 30 日（土）13：00～17：00

会 場：一橋大学 一橋講堂（東京都千代田区一ツ橋 2-1-2 学術総合センター 2 階）

【大阪会場】 会 期：2016 年 8 月 6 日（土）13：00～17：00

会 場：大阪国際交流センター 大ホール（大阪府大阪市天王寺区上本町 8-2-6）

【福島会場】 会 期：2016 年 9 月 10 日（土）13：00～17：00

会 場：福島県文化センター 小ホール（福島県福島市春日町 5-54）

参加登録：学会ホームページ（<http://www.jscp.gr.jp>）からオンラインにて登録してください。詳細は学会ホームページをご覧ください。